

2017.5.24

vol.57

# シネマ・ド・リぶらの コラム・ド・シネマ

映画  
を  
読む

## 5/24 『類猿人ターザン』

「史上最高のターザン」と呼ばれた J・ワイズミュラーのデビュー作 K.M.

「ターザン」は、アメリカの小説家エドガー・ライス・バローズが創造した架空のキャラクターで、小説ターザン・シリーズ（25 作品）、及びその映画化作品（50 作品）の主人公です。

アフリカの奥地、密林と猛獣の未開の地に住むターザンは、幼き日に森に産み棄てられ、動物たちに育てられ、長じて密林の王者となった、歴とした白人の青年です。肉体は白人ですが、白人の言葉は話せません。しかし、野獣の声は自由に聞き分けられ、猿のように身軽に樹から樹へ飛び移り、象の群れを率いて、密猟者や秩序を乱す猛獣に鉄槌を下す自然児なのです。

ターザン映画の歴史は古く、1918 年に最初のターザンが生まれ、アメリカで熱狂的な人気を博し、2016 年の最新作までの 100 年間に 50 本のターザン映画が製作されました。その間、実に 20 人以上のターザン役者が活躍しました。最も人気が高く最も長く続いたのが、6 代目のターザン役者ジョニー・ワイズミュラーです。ジョニー・ワイズミュラーは俳優ではなく、オリンピック米国代表の水泳自由型の選手で、1924 年のパリ大会と 28 年のアムステルダム大会において計 5 個の金メダルを獲得し、60 回以上も世界記録を更新した当時の国民的スーパースターでした。

そんな彼がターザンに扮し、水泳で鍛えた肉体とブロンドの髪をなびかせ、凄いアクション・シーンを演じたのだからたまりません。映画界の新しいヒーローとして、1948 年までの 16 年間に 13 本のターザン映画に主演し、大ヒットを記録しました。彼が危機に瀕して、ジャングルの猛獣たちを呼び集めるときに発する「ア～、ア～ア～」という雄叫びは、世界中の子供たちの熱狂的な人気を獲得し、両手を口にあてて独特の奇声を発する「ターザンごっこ」が流行しました。因みに、ワイズミュラー映画のシンボルともいえるこのターザンの雄叫びは、豹

の鳴き声など、十数種の音源をミックスして MGM の特殊効果部が作り上げたといわれています。

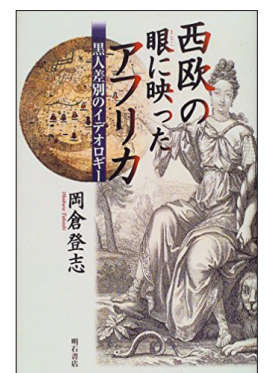
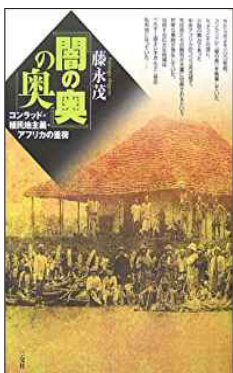
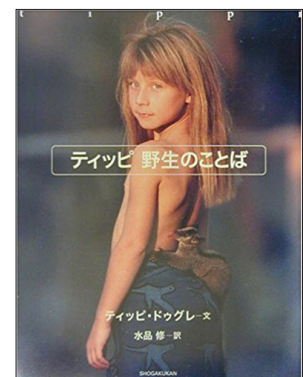
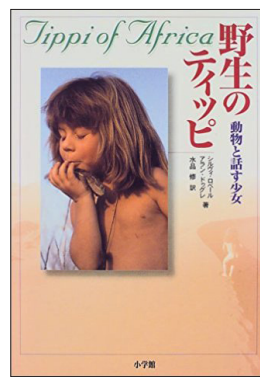
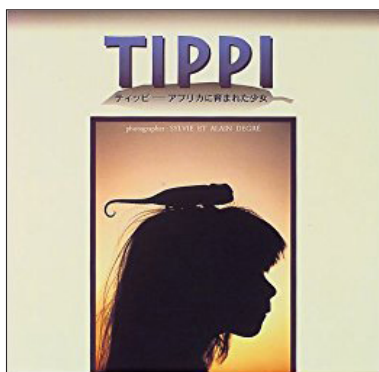
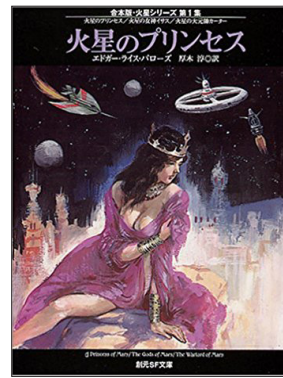
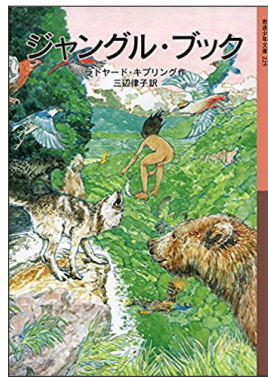
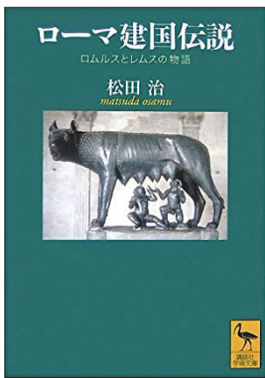
今回上映の『類猿人ターザン』は、ワイズミュラー主演の「ターザン」シリーズの最初の作品です。邦題に使われている「類猿人」は、ゴリラやチンパンジーなど、ヒトにもっとも近縁のサルに通称である「類人猿」のミスプリではなく、この作品の邦題のためにつくられた造語です。

原作は、“鋭い文明考察とリアルなアフリカ描写”が出色のドキュメンタリー作品と言われているようですが、映画では原作の娯楽的側面を拡大して、密林の王者ターザンの超人的な運動能力と、彼を取り巻く多種多量のアフリカ動物の演技、ターザンが初めて接する白人で後に妻（モーリン・オサリヴァン：ミア・ファローのお母さん）となるジェーンとのなれそめ、何時もターザンに付き添うチンパンジーのチータの活躍などを盛り込んだ、ジャングルアクション娯楽巨編に仕上がっており、淀川長治世界クラシック名画 100 選集にも選ばれています。

私が特に面白いと思ったシーンは、①ターザンとライオン・豹との闘いのシーン（本物？CGのない時代にどうやって？）、②ターザンを追うワニとカバ（動力付きの模型？）、③ぬいぐるみの類人猿と本物のチンパンジーの共演！、④象の集団演技（なんと従順な！）、⑤チータ役のチンパンジーの長時間連続演技（相当な役者だ！）など、動物絡みのシーンです。

ジェーン役のモーリン・オサリヴァンとチータ役のチンパンジーは第 2 作以降の作品にもレギュラーキャラクターとして登場し、さらに重要な役割を果たしていきます。特に第 2 作の『ターザンの復讐』は、娯楽作品としてはシリーズ中 1 番おもしろいという評判です。因みに、ジョニー・ワイズミュラー主演の代表作 10 枚組 DVD 「密林の王者ターザン」が、ごく廉価で市販されています。

『ローマ建国伝説』 ロムルスとレムスの物語	松田 治／[著]	講談社学術文庫	164.32
ジャングル・ブック	ラドヤード・キプリング／作	岩波書店	933.6
火星のプリンセス	エドガー・ライス・バローズ／著	東京創元社	933.7
新書アフリカ史	宮本 正興／編	講談社	240
『狼に育てられた子』 カマラとアマラの養育日記	J・A・L・シング／著	福村出版	378
ティッピー野生のことば	ティッピー・ドゥグレ／文	小学館	482.486
『野生のティッピー』動物と話す少女	シルヴィ・ロベール／著	小学館	956
『ティッピー』アフリカに生まれた少女	シルヴィ ドゥグレ／写真	映像文化センター	748
『ケニア』動物王国の魅力に接する	邸 景一／文	日経 BP 企画	294.54
『闇の奥』の奥 コンラッド・植民地主義・アフリカの重荷	藤永 茂／著	三交社	244.8
『西欧の眼に映ったアフリカ』 黒人差別のイデオロギー	岡倉 登志／著	明石書店	240



## 4/20 「バグダッド・カフェ」の感想

・見ているうちに、コーヒーブレイクしているようなゆっくりした時間が流れ、暖かい気持ちになっていく不思議な映画でした。

・楽しくて涙が出ました。あのような人がいたら世の中明るくなるわね。

・観た後にほっこりとする映画でした。ブレンダさんのようにいつも怒っている人っているよねー。でも、最後に二人に友情が芽生えてよかったー。

・ブレンダが強烈だったけど楽しかったです。

・怒ってばかりだったブレンダの笑顔が印象的です。面白かったです。始まりは不思議でした(笑) お菓子とコーヒーもごちそうさまでした。他の方とお話しできてよかったです。

・ジャック・パランスがいい味をだしていました。『シェーン』での悪役の

ガンマンが、年をとってよくなりましたね。足の長さが健在でした。懐かしかったです。

・30年越しにみることができました。楽しめました。

・少し前に観た時よかった。今回も大変よかったです。

・以前観てすごくよかった映画を20年振りに観れてよかったです。喫茶が上映後にあればうれしいです。

・今日の映画もとてもよかったです。

**高齢の方がたくさんみえてて、映画の終了後、明るくなる前に席を立ちます。とても危ないです。誰かがケガしたら、折角のこのシネマの企画がなくなるのではないかと思います。3分坐って待って下さい。**

・前々から観たいと思っていた映画でもよかったです。主題歌がいいです。

・「コーリング・ユー」の歌がステキでした。夕焼けの空がきれいで心があつたまりました。

・砂漠に流れる歌声が素晴らしい！

「Will you marry me?」は、何歳になっても聴きたいフレーズです！

・20年位前に観たけど、又、スクリーンで観られて本当によかったです。

・ジェベッタ・スティールのバージョンの「コーリング・ユー」が一番いいと思います。

・歌の音がとてもきれいでした。

・トップレス セクシーに笑ってしまいました。

・言葉は少なくても、芸ができれば上手いくのかも知れないと思いました。

・出来る人、必要とされる人は歓迎される。人を変えられる位能力がある人に憧れる。

**注意** 上映中の携帯操作は、周りの方の迷惑になりますのでご遠慮下さい。また、観賞マナーを守り、終了後も明るくなるまで席を立たないようにお願いします。



### サロン・ド・シネマについて

6月～9月は、ホワイエが大変暑くなるため、サロンの開催をお休みさせていただいています。水分の補給等、各自でお願いいたします。

### 賛助とご寄付のご案内

賛助サポーターは、年度更新となります。更新の手続きがお済みでない方は、事務局にて手続きをお願いいたします。なお、ご寄付は随時受け付けておりますので、スタッフにお申し出ください。

### 今年度の上映についてのご案内 (上映日および上映作品は変更になる場合があります)

第59回 8月24日(木)『あん』(字幕付き邦画)	① 10:30～ ② 14:00～ ③ 18:30～
第60回 9月21日(木)『自転車泥棒』	① 10:30～ ② 14:00～
第61回 10月19日(木)『荒野の決闘』	① 10:30～ ② 14:00～
第62回 12月21日(木)『みじかくも美しく燃え』	① 10:30～ ② 14:00～
第63回 1月18日(木)『バルカン超特急』(再上映)	① 10:30～ ② 14:00～
第64回 2月15日(木)『黒いオルフェ』	① 10:30～ ② 14:00～

平日の昼間には参加できない方たちのために、来期は現行の「午前の部」「午後の部」に加えて、「夜間の部」を予定しました。6月と8月の上映の結果を踏まえ、その後の検討に入ります。

「シネマ・ド・リぶら」映画上映会（第 58 回）

# たそがれの維納

MASQUERADE IN VIENNA



『未完成交響楽』のヴィリ・フォルスト監督によるラブロマンス。舞踏会を抜け出した医学博士の妻が、ダンディな画家のアトリエでヌードモデルを務めることに。ところが、手違いからその絵がゴシップ誌に掲載され…。

監督・原作・脚本：ヴィリ・フォルスト  
撮影：フランツ・プラナー  
音楽：フランツ・グローテ  
ウィリー・シュミット＝ゲントナー  
出演：アドルフ・ヴォールブリュック  
オルガ・チェホーワ  
パウラ・ベッセリー  
ヴァルター・ヤンセン  
製作：1934年 オーストリア  
上映時間：99分

★日 時 **6月22日（木）**

① **10:30 ~ 12:10** 開場：10:00

② **14:00 ~ 15:40** 開場：13:30

③ **18:30 ~ 20:10** 開場：18:00

★場 所 **りぶらホール**

★定 員 **各回 280 人**（入場無料・全席自由）

★主 催 **岡崎市立中央図書館  
りぶらサポータークラブ**

★問合せ **TEL：23-3114 / 070-5252-7263  
mail：lsc-office@libra-sc.jp**

託児：500円  
（各回5名まで）  
申込みは、  
1週間前までに。

